

「けやき俳句の会」会報(第二百二回)

令和二年八月

第二百二回句会記録

★日時 八月五日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数\*印は会員特選)

②夏風邪も安らげき日と感謝して  
夕去る後ゆつくりと猫あくび  
明易き窓魂の寄り来る

★真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎⑤晩夏光放置自転車錆び深め 樹音
- ◎③遣り水して土の匂うや合歓の花 要
- ◎①外出自粛なれど外出鰻の日 蕉哉
- ⑦荒梅雨や大河は道を見失う 東洋
- ②梅雨寒や親呼ぶ鴉の甘え声 藍愛
- ②雨蛙の背に雨蛙のそのそと 而今
- ②青柿の落つ音がして未明かな 隼人
- ②七夕やコロナ収束願ひ事 誠
- ②何故かはたと止みたる蝉時雨 樹音
- ①登山道閉じるこの富士の山 誠
- ①新型コロナ梅雨の豪雨も被害増す 誠
- ①兄葬り帰路の車窓に梅雨しとど 盈光

★会員互選句

- ⑤廃線の消失点に雲の峰 清明
- ④夜明け富士雲のはたての御来光 夢城
- ④心足るひとりの空よ白日傘 香魚
- ④五風十雨に非ず混沌梅雨長し 清明
- ③結界は風鈴の音タごころ 香魚
- ③二番子は愛想がよろし夏燕 香魚

③オンラインステイホームの梅雨晴間 紀泉

③梔子や香りも届けテレワーク 秋雲

③三伏や薄茶点前も板に付き 隼人

③しとしとの風情や何処梅雨荒ぶ 清明

②野良猫がのそり顔出す梅雨晴れ間 真弓

②水馬青空のなか泳ぎをり 冬水

②巢籠りの喉にすつきり冷素麺 秋雲

②でで虫も木漏れ日探し長雨に 紀泉

②火球落つ千葉に宇宙のプレゼント 蕉哉

②坦々と難儀乗り越え蟻の列 一華

②長梅雨にてるてる坊主雨宿り 盈光

①露ゆでて翡翠ピアスとおどけみせ 藍愛

①海の日や蟹折る紙の赤青黄 藍愛

①みんなん蟬七夜の命惜しむ 而今

①夏の蝶菩薩のおつむひと休み 而今

①憧れや飛び立つ鳥を眺む夏 真弓

①夏燦燦岡本太郎の絵の魅力 隼人

①新しうが黄金煮てふ色と艶 一華

①老友死す八重の十薬教われり 秋雲

①はよ来いとあしながの馬盆用意 要

①選り好みはげし苦瓜味なもの 東洋

①長梅雨や紙切り鉄鈍りをり 冬水

①梅雨寒や心の湿り手の冷えも 樹音

【次回開催】

九月二日(水)

メール句会 自由句三句